

第4次阿賀野市食育推進計画

<概要版>

令和7年度 ▶ 令和10年度

計画に対する基本的な考え方

基本理念

阿賀野の食で、豊かな人間性と健康な心身(からだ)を育み、
人と人とのつながりを大切にし、明るい未来を築く

キャッチフレーズ

食べる楽しみ 阿賀野の恵み

計画の位置づけ

阿賀野市食育推進計画は、食育基本法第18条に基づく市町村食育推進計画として位置づけ、国の「第4次食育推進基本計画」、さらに本市の「第3次阿賀野市総合計画」をはじめとし、その他の関連計画との整合性を図りつつ食育を総合的に推進していきます。

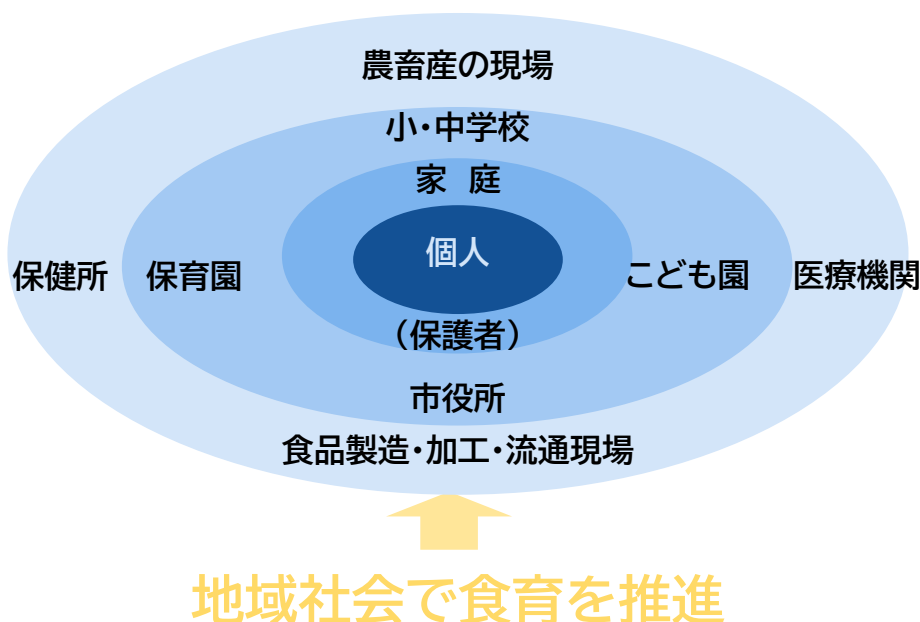
計画の期間

第4次計画の期間は、令和7年度から令和10年度までの4年間とし、関連計画の「健康あがの21計画」の中間評価と時期を合わせます。

社会経済情勢の変化などによって、計画の変更が必要になった場合には、阿賀野市食育推進会議の意見を聴いて、見直すこととします。

計画の推進体制

阿賀野市の地域特性などを活かした食育を具体的に推進するため、家庭、こども園、保育園、小中学校、地域、企業など、さまざまな領域において、総合的に「食育」を進める必要があります。このため、市では、関係課が横断的な連携を図りながら、関係団体との連携により市民に「食育」が浸透するように計画を推進していきます。



施策目標の体系

今後さらに「食育」を推進していくためには、全世代での取組が重要であるため、食育全体の目標を全ての世代で取組む食育とします。その中で若い世代では第3次計画に引き続き、朝食摂取、減塩、バランスの推進を掲げ、高齢世代では、「一緒に食べる」共食のコミュニケーションを目標に推進展開を図ります。

大目標

「全世代の誰もが取り組める食育の推進」

中目標

「若い世代からの朝食摂取、減塩、バランス食の推進」

「高齢期の共食による食の楽しみの推進」

施策別目標

分野別目標

食に関する知識
の習得と健全な
食習慣の実践

健康寿命延伸のための全世代ですすめる食育

- ・子どもの頃からの規則正しい食習慣の習得
- ・小児期から高齢者までの適正な体格維持の推進
- ・生涯にわたっての減塩習慣

目指す姿

子どもの頃から食に対する正しい知識を習得することにより、健全な食習慣を堅持することができ、生涯の心身ともに健康へつながります。

安心・安全な農
畜産物の生産と
地産地消の推進

安心・安全な食と地産地消をすすめる食育

- ・地産地消の理解と地場産食材の消費拡大
- ・安心安全な農畜産物の生産
- ・給食の地産地消の推進

目指す姿

地元で作られた新鮮な食材が食卓に上がることにより、安心安全な農畜産物についての理解を持ち、生産者や農業への理解と食への感謝の気持ちを持つことができます。

食文化の伝承と
発展

和食や地域の食文化を継承していく食育

- ・家族や地域コミュニティでの共食の推進
- ・和食、ごはん食の推進
- ・子どもの頃からの地域の食や郷土料理への理解

目指す姿

家族や友人・知人と食卓を囲み、また地域でつどい食事を楽しむことにより日本の食や地域の食文化を継承・伝承することができます。

食を取り巻く
環境問題への
取組

食の環境や食循環を配慮し、災害に備える食育

- ・家庭の食品ロスを削減の推進
- ・子どもの頃からの「もったいない意識」の啓発
- ・災害に対する食に関する知識の普及

目指す姿

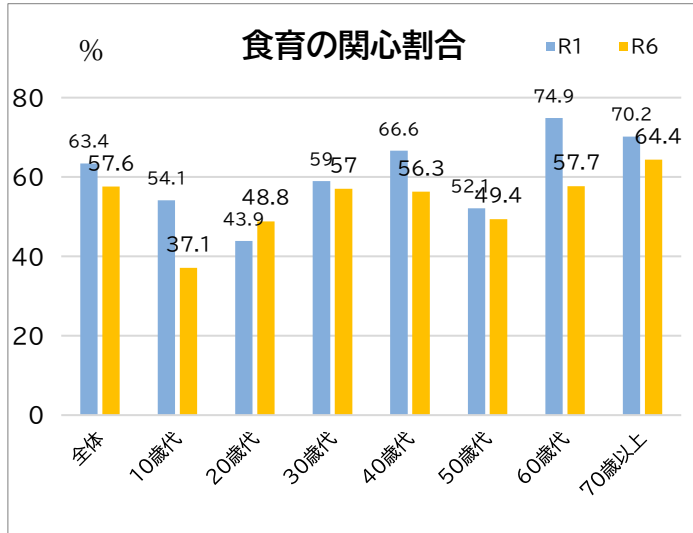
一人一人が食品の購入や保存方法を理解し工夫することができることにより、家庭での食品ロス削減ができます。
災害に備えた備蓄方法や、災害時の対応食などの知識を持つことで、災害に対応できる備えができます。

食に関心を持ち、実践する人を増やす

— 阿賀野市の状況 —

食育に関心を持つ人

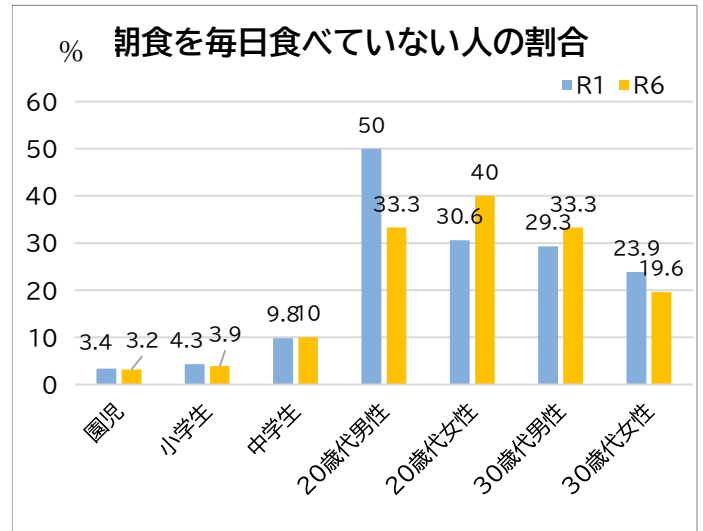
- ・食育に関心を持つ人の割合は減少し、悪化していました。10 歳代、20 歳代、50 歳代で 関心が低く、70 歳代が一番関心を持つ割合が高かったです。
- ・10～20 歳代をまとめると、関心度の割合は計画策定時と同程度でした。



出典:健康あがの21アンケート

朝食欠食状況

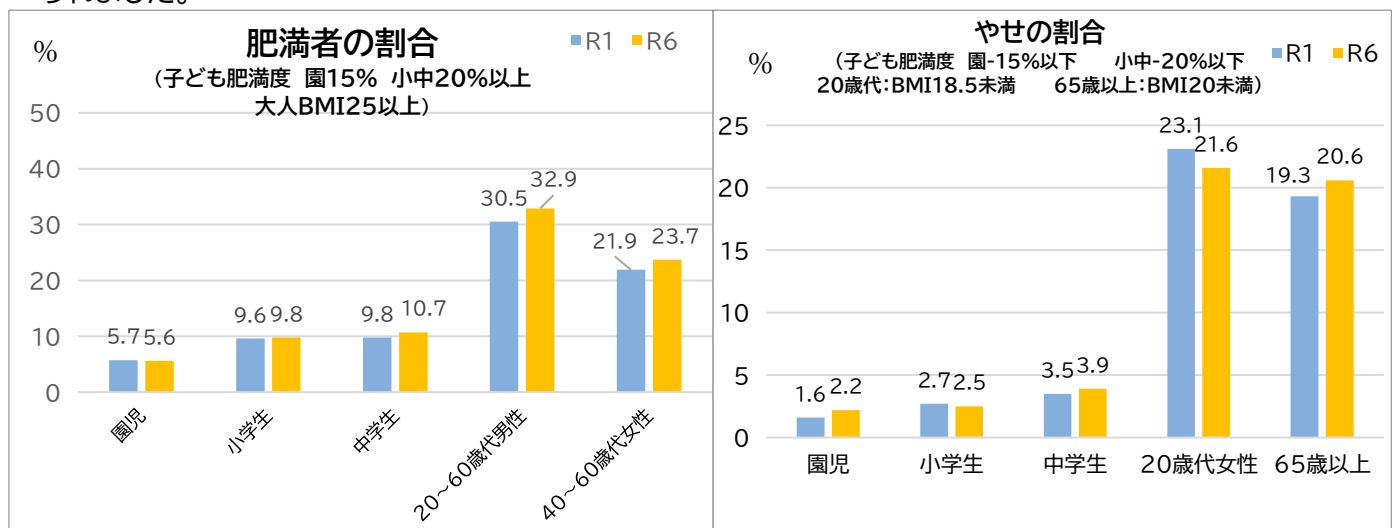
- ・大人では 20 歳代男性と 30 歳代女性で策定時より 欠食割合が減少し目標達成しました。
- ・20 歳代女性と 30 歳代男性では、欠食割合が増加し悪化していました。朝食を食べなくなった時期は「就職してから」が多かったです。



出典:生活アンケート(園児 3～5 歳児)
食育アンケート(小学 1・3・5 年生)
中学生生活習慣病予防事業アンケート(中学)

体格の状況

- ・肥満の割合は園児・小学生で変わらない状況でしたが、中学生で肥満割合が増加し、悪化していました。やせの割合は園児・中学生で増加しています。小学生では減少していました。
- ・成人では、肥満者は 20～60 歳代男性、40～60 歳代女性で増加し悪化の状態が続いています。やせの割合は 20 歳代女性で減少しやや改善しました。60 歳以上では変わらない状況ですが、65～74 歳で悪化がみられました。



出典:小児体格調査、学校保健統計、市健康診

第4次計画の数値目標

指 標		現状値(R6)	目標値(R10)
食育に関心を持っている人の増加全世代(若い世代の増加 20～30 歳代)		57.6%(54.2%)	78%(60%)
朝食を毎日食べていない人の減少	園児	3.3%	0%
	小学生	3.9%	0%
	中学生	10.0%	0%
	20 歳～30 歳代男女	29.1%	25%
肥満者の減少	園児(肥満度 15%以上)	5.6%	5%
	小学生(肥満度 20%以上)	9.8%	10%
	中学生(肥満度 20%以上)	10.7%	10%
	20～60 歳代男性(BMI25 以上)	32.9%	25%
	40～60 歳代女性(BMI25 以上)	23.7%	20%
やせの人の減少	園児(肥満度－15%以下)	2.2%	1.5%
	小学生(肥満度－20%以下)	2.5%	2%
	中学生(肥満度－20%以下)	3.9%	3%
	20～30 歳代女性(BMI18.5 未満)	20.0%	18%
	65～74歳(BMI21.5 未満)	25.3%	18%
	75歳以上(BMI21.5 未満)	36.1%	33%
主食・主菜・副菜のそろった食事を1日2回以上食べている人の増加		76.0%	80%
野菜料理(漬物以外)を1食に2皿以上食べている人の増加		44.1%	55%
普通の食事で減塩・適塩を心がけている人の増加		60.6%	70%
食塩摂取量の減少(中学2年生)		12.6g	7g未満
『塩をとりすぎ新潟県民の 10 の食習慣』を知っている人の増加全年代(重点対象 20～40 歳代)		32.7%(15.2%)	40%(20%)
(『塩をとりすぎ新潟県民の 10 の食習慣』のうち)普通の食事を満腹まで食べる人の減少		70.2%	65%
(『塩をとりすぎ新潟県民の 10 の食習慣』のうち)濃い味付けを好んで食べる人の減少		37.2%	35%
(『塩をとりすぎ新潟県民の 10 の食習慣』のうち)麺の汁を1/3以上飲む人の減少		48.5%	43%
外食や食品購入の際に栄養成分表示を参考にする人の増加		30.6%	55%
市内統一の減塩給食を提供する回数		5回	11 回
地産地消に関心がある人の増加		78.7%	90%
スーパーや直売所で地場産野菜を購入する人の増加		77.7%	80%
学校給食の地場産食材(野菜)の利用増加(重量ベース)		17.6%	30%
地域で共食をしたいと思っている人の割合(65 歳以上)		34.4%	40%
朝食を家族の誰かと一緒に食べている人の割合		52.8%	60%
朝食または夕食を家族と一緒に食べる共食の回数	園児	12.1 回	14 回
	小学生	11.8 回	13 回
	中学生	11.0 回	12 回
ごはん(米飯)を 1 日 2 食以上食べている人の増加		83.9%	90%
家庭で郷土料理を食べている人の増加		61.1%	65%
郷土料理を知っている子どもの増加		55.4%	60%
家庭から食品ごみを減らす努力をしている人の増加		80.9%	85%
学校給食における残食量の減少		1.94t/月	減少
災害に備えた食料品などの備蓄をしている人の増加		30.2%	40%